

# 令和7年度 瑞江第三中学校 学校経営方針

江戸川区立瑞江第三中学校

校長 山口 孝

## 1 教育目標

【教育目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学んで、自己を高める生徒</li> <li>・人を大切にして、共に生きる生徒</li> <li>・心身が健やかで、活力のある生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知性】（知）</li> <li>【敬愛】（徳）</li> <li>【健康】（体）</li> </ul>
【目指す学校像】	<p>学校は、生徒が友達と共に学び合い、人生の基礎づくりをする場所である。そして、教職員と保護者と地域社会の人々が、生徒の教育活動に参加し、互いに育ち合う場所である。この営みを通して、瑞江第三中学校は、そこに集う人々が〈夢〉と〈希望〉を育む学校でありたい。</p>	
【目指す生徒像】	<p><b>自己実現に向かう生徒</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の願いをもって、願いを達成するために学び続ける生徒</li> <li>・他者の考え方に共感し、困難や葛藤を解決していく生徒</li> <li>・自分の“よさ”を生かして、人や社会に貢献していく生徒</li> </ul>	

## 2 当面する課題と解決の方向性

	課題	解決の方向性	主な手立て
1	<p><b>学び続ける生徒の育成</b></p> <p>取組・成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力区平均以上</li> <li>国学テ、区学テ、領域テ等</li> <li>・願い・夢・将来を語る生徒</li> </ul>	(1)授業改善による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①『瑞三学びプロジェクト』</li> <li>②協同的な学び(「学び合い」)の充実</li> <li>③家庭学習と補習(ミライシードの活用)</li> </ul>
		(2)探究的な学習活動の充実(学ぶ意味、願いの創出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習の基盤となる資質・能力の育成</li> <li>②探究的な学びのスキルの習得</li> </ul>
2	<p><b>支える生活指導の充実</b></p> <p>取組・成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活意識調査</li> <li>・いじめアンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)学級経営の充実</li> <li>(2)いじめの指導の充実</li> <li>(3)不登校対応の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①『こころプロジェクト』(教育課題実践校)</li> <li>②道徳の時間、学級活動等の充実</li> <li>③校内別室登校指導の充実、不登校巡回</li> </ul>
3	<p><b>みんなが幸せな学校づくり</b></p> <p>取組・成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・◎U45、OU60、△U80</li> </ul>	(1)Innovation2030(働き方改革、やりがい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①セルフコントロール、行事精選、部活動改革</li> <li>②やりがいの創造(研修・研究会への参加)</li> </ul>
		(2)人材育成(OJTの推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>③指導者・メンターによる指導・支援の充実</li> </ul>

## 3 学校経営方針

(1) 人権尊重 — 自分も大切に、相手も大切に —

「人権感覚」「人権意識」をもって生徒への指導に当たる。特に、教育の場にふさわしい「言語環境」を心がける。

(2) 安心・安全が保たれた学校生活 — ヒヤリ・ハットを見逃さない —

授業中及び学校生活、施設・設備、防災体制など、生徒の行動を予測した安全管理体制を確立する。

(3) 学習指導 — 授業をするから教師、「学んでいない生徒がいない授業」 —

- ① 「瑞三学びプロジェクト」(「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善)を推進する。  
・「深い学び」につながる単元計画、「共有」と「ジャンプ」の授業デザイン、グループ学習を重視する。
- ② 授業、家庭学習、補充学習のつながりある指導体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。
- ③ 教科等横断的な視点をもつとともに、各教科領域の授業の充実を図る。

#### (4) 生活指導 - 支える生活指導への転換 -

「自己存在感」「共感的人間関係」「自己決定」「安心・安全な風土の醸成」の視点から、「自己指導能力」の育成を目指す。

- ① 「こころプロジェクト」(発達支援的・課題予防(未然防止/早期発見)的生活指導の充実)を開発する。
- ③ 指導・支援の基盤となるように、生徒及び保護者との人間関係の構築を心がける。
- ④ 問題行動へは、素早い情報共有と迅速な対応を心がけ、組織的にかつ一貫性ある指導をする。
- ⑤ いじめ防止といじめへの対応、不登校への柔軟な対応、発達特性への適切な支援を推進する。

#### (5) 進路指導 - 進学指導からキャリア教育へ -

キャリア教育の視点に立ち、望ましい勤労観・職業観の育成と主体的な進路選択ができる能力を養う。

「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つキャリア教育の視点を重視し、基礎的・汎用的能力を育成する。

#### (6) 特別活動・その他 - 学級を安心できる場に、学びのある体験活動を -

集団活動を通して集団の一員としての自覚を高めながら自己有用感を育てることで、自分の学級・学校や地域に対する愛着心や誇りをもてるようにする。

- ① 学級活動や生徒会活動を通して、自主的、実践的態度を育成する。
- ② 行事等の体験的活動を通して、望ましい人間関係を形成する能力を育成する。
- ③ 生活習慣づくりへの取組(「生活改善カード」)、体力向上への取組、食や健康に関する指導等の充実を図ることで、自己の生活をデザインする力を育成する。
- ④ ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。
- ⑤ 教育的意義を高める部活動

将来的に「地域展開」なることを視野に入れ、生徒の自主的・自発的な参加、多様な学びや経験の場、興味・関心を追及する場という、部活動本来の目的を重視した活動をする。

#### (7) 特別支援教育 - 特性に応じた手立てを -

特別支援委員会、巡回指導を中心に据え、発生徒一人一人の能力を最大限に伸長するために、指導法の工夫に努める。また、SC、SSW、校内別室指導支援員、ステップサポーター等の人材の活用、関係諸機関との積極的な連携、エンカレッジルームを利用した学びの多様化への対応等、包括的な対応を推進する。

#### (8) 学校運営 - 組織で動く -

学校がチーム(組織)として機能するために、全ての教職員が職層や組織における役割を理解し、当事者意識をもって学校経営に参画する。

- ① 「相・連・報」の的確な実行を通して、組織としての意思決定が的確に行われるようにする。
- ② 計画的・効率的な働き方の推進をする(タイムマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、提出期限厳守等)。
- ③ 『職場環境』の整備「5S」<<整理・整頓・清掃・清潔・習慣化(躰)>>を心がける。

#### (9) 法令遵守 - サービス事故「0」、ハラスメント「0」 -

- ① 公務員・教育公務員であることを自覚し、サービス事故の起こらない組織を目指す。
- ② 公務員・教育公務員としてコンプライアンス(法令遵守)を徹底する。
- ③ 人権感覚、人権意識を磨き、ハラスメント防止に努める。